

4月の村長選で無投票5選を決めた東吉野村の水本実氏(73)は、4期16年の中で作り上げてきた若者の移住定住施策のクリエイティブビレッジ構想をはじめとした、さまざまな取り組みを打ち出し、移住や雇用の場の創出へとつなげることに力を入れている。「子どもの声が響く賑わいのある村づくり」を目指す水本氏に、整備した小さな道の駅「ひよしのさと」の今後の展望や、村の空き家活用、5期目への意気込みなどを聞いた。

平成18(2006)年に村長として初当選をさせていただきました。当時の財政は、資金繰りの程度を示す「実質公債費比率」の数字が高く、奈良県でワーストワンという状況でした。そのため1期目は主に財政改革に力を入れました。

そして2期目では、若者定住を打ち出しました。当時は村の人口が毎年約100人ずつ減っている状況。そ

14期16年の中で、主に取り組んでこられたことは。

東吉野村長 水本実氏

クリエイティブビレッジ構想 もっと進化、さらに加速



こで医療費の無料化から始まり、さまざまな子育て支援のための制度を作り、なんとか村に留まってもらおうという取り組みを行いました。

そうしたことを続ける3期目の平成25(2013)年の秋、村に移住してきてくれた若者らと話をする機会がありました。そこで「都会には『田舎に住みたい』『田舎で仕事をしたい』という思いを持った人がいます。そういった人たちへの情報発信の協力をお願いします」と言ってくれたんです。そこから移住という考えで進めていくということを決めました。その翌年には、クリエイティブビレッジ構想を打ち出し、予算計上などを経て始動し、5期目の今に至っています。

1村のオフィスキャンプを中心に、東吉野村へ人が集まっていると聞いています。

スタート当時は、今のようなテレワークやサテライトオフィスといったものを誰もが耳にするような状況にありませんでした。私自身も最初、オフィスキャンプというものがどういう場所なのか知りませんでした。気の長い話になるだろうなと思っていましたが、早い段階で効果が現れました。実際の構想開始前に移住してくださった人もいます。が、トータル110人を超えています。そのうちの30人強が子どもさんです。私自身としては、自分たちが子育てしたころのような、あちこちで子どもの声がする村にしたい

という思いを持っています。

1そういった村に人が増えている状況から、村のPR用ポスターのキャッチコピーとして「人がいる」という言葉を使っていますね。

電車内に掲示してもらっているもので、村に移住してきてくださった、カメラマンの西岡潔さんが撮影した村の写真に、オフィスキャンプの管理を行いながら移住に力を貸してくださっている坂本大祐さんが「山がある 川がある 人がいる」というキャッチコピーを付けたポスターになります。

坂本さんは元々、山村留学をするために、ご両親と共に村へ来られました。彼自身は山村留学が終わった後は大阪で活動が続けていましたが、村に戻ってきて活動をしてく



電車内での村のPR用として作られたポスター(標語:坂本大祐さん、写真:西岡潔さん)東吉野村提供

全てが移住へつながる村づくり



企業募集を行っているサテライトオフィス



村のオフィスキャンプ

れています。

1整備された「小さな道の駅」については、今後どのような展開をお考えですか。

加工センターとして独立採算の取れるように、道筋をしっかりとしていきたいと考えています。そのためにはまず関西圏で、取り引き先を増やして、販路拡大が必要になります。そして関東、特に東京方面で販路の開拓を行い加工場を拡大、そうすることで雇用も増えます。村としてゆず製品に力を入れています。そこを中心、村を代表する新しい商品の開発に取り組んでいます。

1他にどのような取り組みをされていますか。

村では現在、サテライトオ

フィスとして改修工事を終えた施設へ2社の企業を募集しています。近くの空き家物件を社員宅として利用していたく用意もしています。そうして雇用の場を生み出すとともに、村の空き家についても改修を行いながら地域住民らの話を聞き、移住へつなげていきたいです。

1空き家の活用方法として、お考えのことはありますか。

私の思いとしては、子どもが英語を学べる場所をつくりたいと考えています。学校でも、もちろん英語を学べますが、この場では実際に話せる英語を、村民であれば無料で学べる場所にしたいと思っています。それもまた、村に移住していただいたら、無料で子どもが話せる英語を学べるという魅力が移住につながる

のではないかと考えています。

1最後に、5期目の意気込みを。

東吉野創生として取り組み第一弾がシェアオフィス、第二弾が小さな道の駅の整備です。そして第三弾が先ほどのサテライトオフィスや空き家の活用などがかつての賑わいを取り戻す、村の再生です。クリエイティブビレッジ構想については立ち止まったら沈んでいくものと思っていますので、もっともっと進化し、加速させていきます。

それ以外にも教育や住民福祉、主に林業になりますが産業、そして観光といった色々な分野についても課題があります。そういったものについても、これまで以上に取り組んでいかなければなりません。こういった思いを持って5期目をスタートしました。